

(様式)

令和7年 3月 3日

狭山市教育委員会
教育長 滝嶋 正司 様

狭山市立笹井小学校
校長 佐野 芳美

令和6年度 狭山市立笹井小学校学校関係者評価表

- ※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。
- ※ 【評価の目安】
- A：よくできている。(90%以上)
 - B：概ねできている。(85%以上)
 - C：あまりできていない。(70%以上)
 - D：できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・校長の経営方針のもと、「チーム笹井」として学校、学年、学級が共通理解をもち足並みを揃えて学校運営が進められた。 ・教育心理検査(Q-Uテスト)の学級生活満足度が、(平均55.5%全国42.5%)である。高学年になるほど満足群割合が増加していることはうれしいことである。引き続き取り組んでいく。 ・学校評価保護者アンケート回答率85.5(昨年度69.3%)。QRコードによる回答2年目。回答率はあがった。回答設定に不備あり1項目、再回答依頼も。アンケートの正確な作成に課題。 ・職員は相互に尊敬しあう風潮があり、雰囲気も良く仕事への意欲に繋がっている。	・校長の経営方針の共通理解、Q-Uの学級満足度の高さ、教職員の尊敬しあう姿、設備等の事故0などからみても、教職員、児童、家庭、地域がうまくつながっていることがわかる。 ・活力のある教育活動が展開されている。 ・清掃が行き届き、ものも整理されており、よく管理されている。
	2	児童生徒は、学校生活が楽しいと感じている。	A	・学校評価保護者アンケート回答率85.5(昨年度69.3%)。QRコードによる回答2年目。回答率はあがった。回答設定に不備あり1項目、再回答依頼も。アンケートの正確な作成に課題。 ・職員は相互に尊敬しあう風潮があり、雰囲気も良く仕事への意欲に繋がっている。	・授業や休み時間の様子から、児童が楽しんで過ごしていることがわかる。 ・ボランティアで教室に入ったり運動会での様子を見たりして、校長先生を中心に先生方は様々なことに協力している。
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	・教職員も児童と共に清掃活動を行い、見届けができています。無言清掃を徹底。丁寧ながらも学校の規模に対する分担人数がやや課題。 ・施設設備の劣化、破損等による事故は、一度もなかった。校庭整備では、本年度特に雑草の発育がひどかったが、PTAやCS、ボランティアと連携し計画的に進めることができた。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B		
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A		
学習	6	教師は、児童生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	・すべての学級で落ち着いた雰囲気での授業が実施されている。ICTの活用や具体物を使った授業を通して、興味関心を持たせ、楽しみながら授業を進めた。保護者アンケート(わかりやすい授業をしている肯定的評価約90%) ・各種の学力調査を分析し、指導改善に努めている。 ・学校課題研究「文章を正確に読み取り内容を深く理解し考えを伝えることができる児童の育成」に取り組む読解力の向上を図っている。	・授業での先生方の丁寧な言葉遣い、分かりやすい支持、工夫された授業展開等、先生方の真摯な取り組みの様子がわかる。 ・保護者アンケート「わかりやすい授業」肯定的意見90%以上、家庭学習の時間の伸び、「英語の授業が楽しい」肯定的意見90%以上など、先生方の励ましや適切な評価の結果である。
	7	児童生徒は、落ち着いた学習に取り組んでいる。	A		・板書は「ねらい」「思考過程」「まとめ」がはっきりして分かりやすい。 ・「笹井の戦災」の学習で、児童は目を耳を傾けてくれた。終了後の雑談では児童の発言と先生の対応がなんとも心地よく、日頃の学校生活が目に見えよう。
	8	児童生徒は、基礎的基本的な学力を身に付けている。	A	・家庭学習時間を、低学年は30分、中学年は40分、高学年は60分をめやすと考えて進めている。昨年度より目安とした学習時間での取組が増えた。より具体的な学習例を示すなど改善しつつ、学習習慣の定着を図る。	・家庭学習の習慣化には一朝一夕には解決できない。コミュニティースクールのテーマの一つとして取り組んでもよいのでは。
	9	児童生徒は、家庭学習の習慣を身に付けている。	B	・高学年の英語、中・低学年での英語活動は、英語専科教員、英語支援員、そしてALTが中心となって、担任と連絡を取り合い毎回工夫をこらした授業をしている。児童意識調査では「英語が好き」88.0%、「授業が楽しい」90.7%と市平均よりも高い結果となっており児童も楽しく英語を声に出して取り組んでいる。	
	10	児童生徒は、英語活動をとおして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B		
規律ある態度	11	児童生徒は、進んであいさつをしている。	B	・朝の登校のあいさつについては、できる班とできない班で二極化している。学校に来れば挨拶ができる。(県学調アンケート4.5.6年平均あいさつ81.6% 全国76.4%) さらに、主体的に気持ちのよいあいさつができるよう指導していく。	・廊下で出会う児童は気持ちのよい挨拶をしてくれる。また、マーチングの指導では「よろしくお願ひします。」「ありがとうございます。」「をしっかりと伝えてくれる。 ・自然に「ありがとう」が言える姿がよい。 ・決まりを守って規律ある行動ができる児童が多い。 ・先生方の笑みのあるあいさつに心温まる。
	12	児童生徒は、場に応じた言葉遣いができる。	B		
	13	児童生徒は、時間を守って生活している。	A	・児童の丁寧な言葉遣いの意識は、(県学調アンケート4.5.6年平均86.5%)であり、埼玉県の実績率85.0%を超えることができた。さらに、人権感覚を意識した優しく思いやりのある言葉遣いを徹底していきたい。	
	14	児童生徒は、きまりを守って生活している。	A	・「授業開始時刻を守るの意識」94.3% ・「掃除、美化活動での意識」90%	
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A	教師は清掃活動等、自ら手本となる規範意識を高めた指導を行っている。	
健康・体力	16	学校は、児童生徒の体力を高めている。	A	・新体力テストの総合評価A+B+C 県割合78.4% 本校77.2% ・運動の制限も緩和されてきた。自主活動の朝マラソンや体育授業の中でのサーキットトレーニング、体育朝会、冬季の縄跳び等、授業内外での取り組みを工夫年間を通じて行っている。	・児童は休み時間も意欲的に体を動かし、元気に過ごしていると思う。 ・校庭を元気に走り回る児童の様子は、見ていてとても気持ちがいい。
	17	児童生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	・保健学習「生き生きタイム」「健康な生活」等への児童の関心が高まりつつある。	
	18	児童生徒は、健康を意識した生活をしている。	B	・家庭や関係機関と連携して医療助産の治療率を上げていく。	
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・学校運営協議会(コミュニティースクール、CS)やPTAのおかげで地域の協力が大変多く、良好な関係が保たれている。11月土曜日の授業公開日午後のPTAバザーではCSの協力で各種体験教室の実施が昨年度より、充実した活動となっている。 ・どの教職員も保護者等と連絡を密に取り合い、連携し、保護者の信頼を得ている。	・スクリーンをはじめ、学校からたくさんの情報を受け取ることができ、「開かれた学校」が実践できている。 ・民生委員、地域教育ネットワーク等にも必要な情報源となっている。 ・CSの活動には、新しい学校づくりの視点を感じている。今後も児童を中心に据えた活動の充実を図りたい。 ・学校行事を通して、地域の方々に参加してもらった準備等は今の先生方の現状からは厳しいと感じる。コミュニティースクール会長のもとCSが中心となって地域と学校、家庭が一体となれる方向へ迎えていることはすばらしい。 ・朝の放送で流れている「あいさつ」の歌。これは水富地域会議でずいぶん前に企画・作成したもの。大切にしてくれているのがうれしい。 ・校区内の自治会長と意見交換会を行うなど、地域との関わりが深い。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	・引き続き学校公開日や参観日、HPやブログ、学校だより、スクリーンを通して「開かれた学校」づくりを目指す。 ・CSを軸にした笹井地域の良さや教育資源を生かす開かれた学校づくりもより推進できた。(マーチング活動・安全指導・DX/ICT支援・平和学習・地域の伝統芸能・環境整備)	